

2010年11月30日

2010年JVCA投資動向調査（第3四半期レポート）

日本ベンチャーキャピタル協会  
調査・研究委員会

1. 集計対象

JVCA 会員 56 社へアンケート形式で実施。

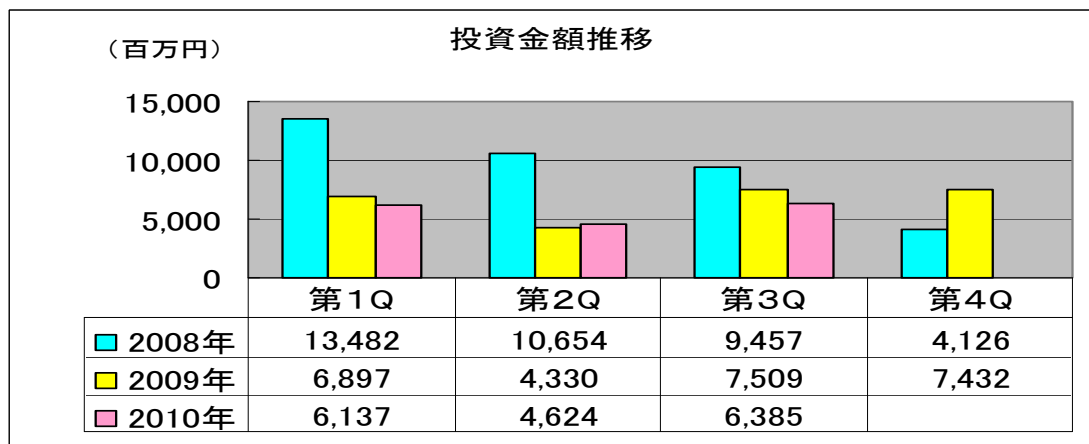
アンケート回答社数 42 社の協力を得て、2010 年 7 月～9 月（第 3 四半期）の VC 投資実績について集計を行いました。

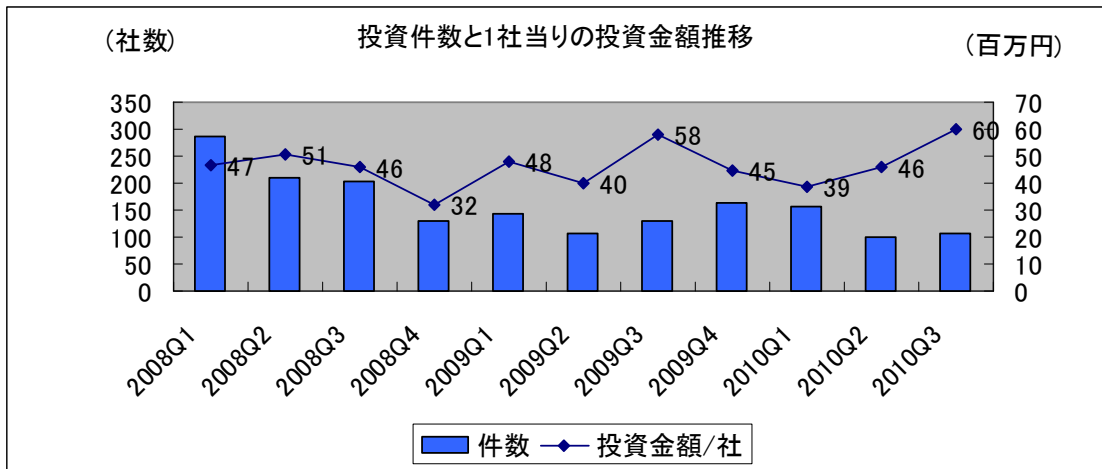
（注：2010 年第 2 四半期の回答社数 42 社 2010 年第 1 四半期の回答社数 41 社、2009 年第 4 四半期の回答社数 38 社、2009 年第 1 四半期～第 3 四半期の回答社数 40 社、2008 年第 1 四半期～第 4 四半期の回答社数 35 社）

2. 調査結果概要

(1) 2010 年第 3 四半期の投資金額と投資件数

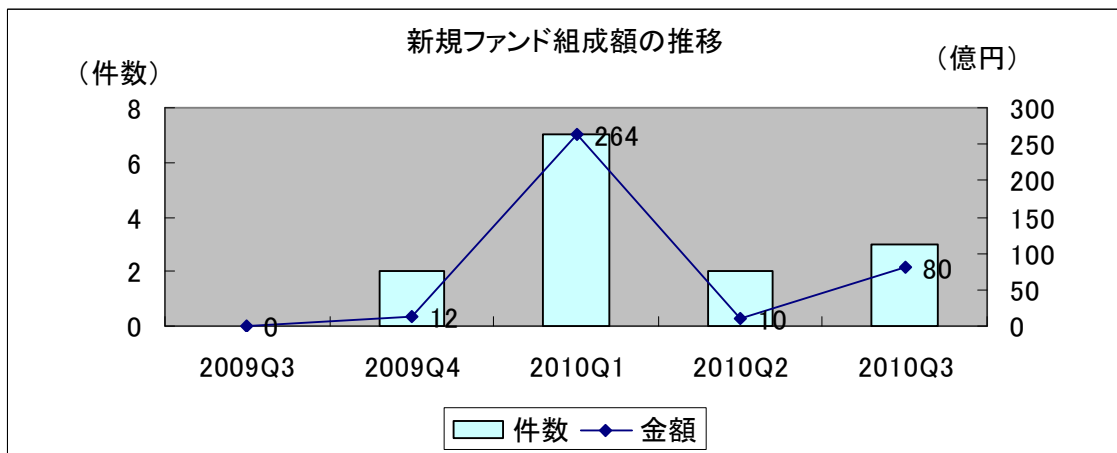
投資金額は 64 億円で、前年同期比（2009 年第 3 四半期の投資金額は 75 億円）15%の減少でした。しかし前四半期比（2010 年第 2 四半期の投資金額は 46 億円）では 39%増加しており増加の兆しが見られます。但しこれが本格的な回復基調かは第 4 四半期の投資動向を確認してからの判断としたい。一方投資件数は 106 件で前年同期比（2009 年第 3 四半期の投資件数は 129 件）を下回り、前四半期（過去最低件数の 101 件）と比較しても微増で引続き低調であった。1 社当りの投資金額は 60 百万円で前四半期（46 百万円）比増えているが、この要因は 1 件当りの投資金額が大きいバイオと工業・エネルギーのセクターの投資が増えたことに起因すると推察する。





(2) 新規ファンド組成額の状況

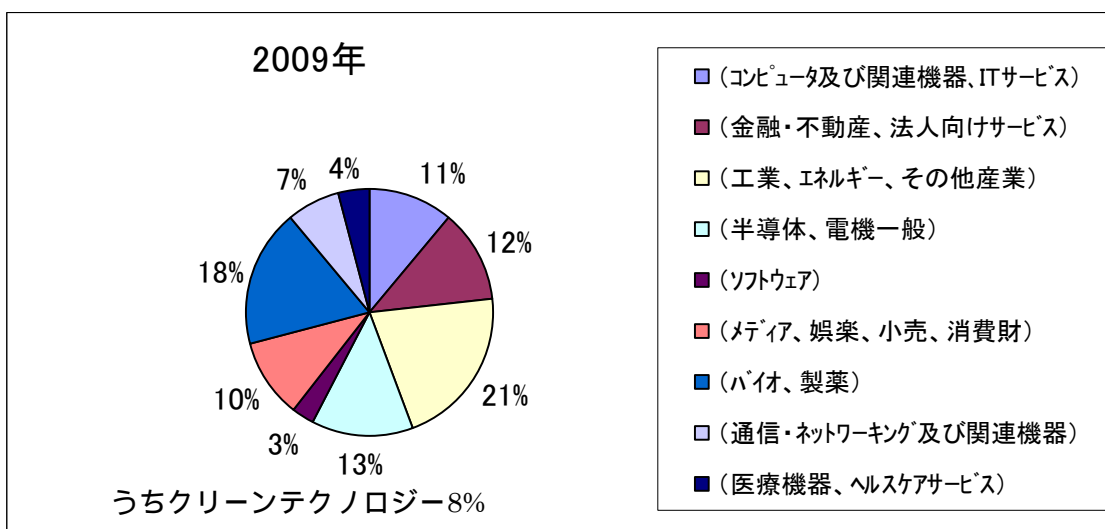
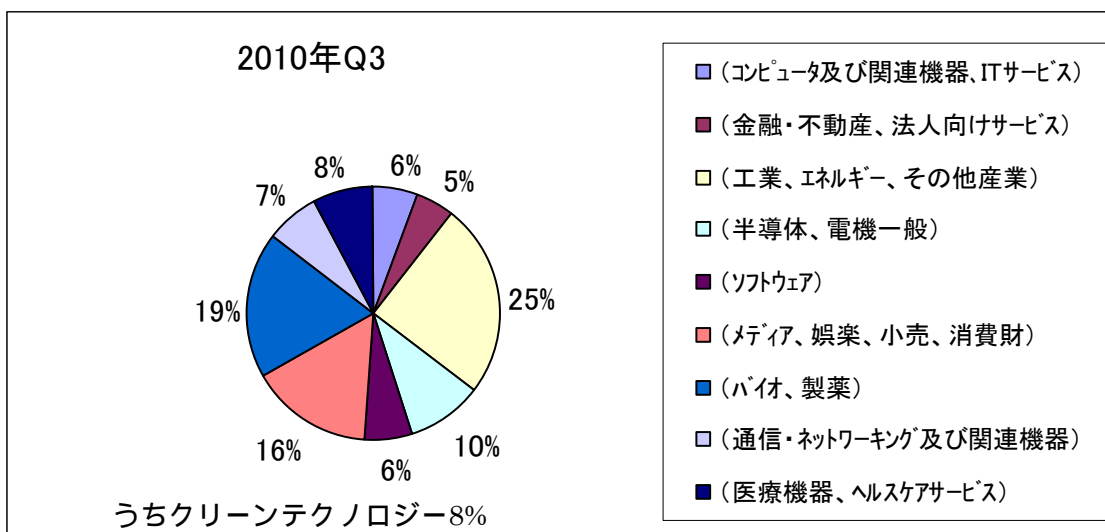
第3四半期の組成は3件80億円であった。第2四半期(2件10億円)比増えてはいるが、未だ本格的なファンドレイズは難しい状態が続いている。



注) 今回の新規ファンド組成は、アンケートに回答のあったVC42社の集計

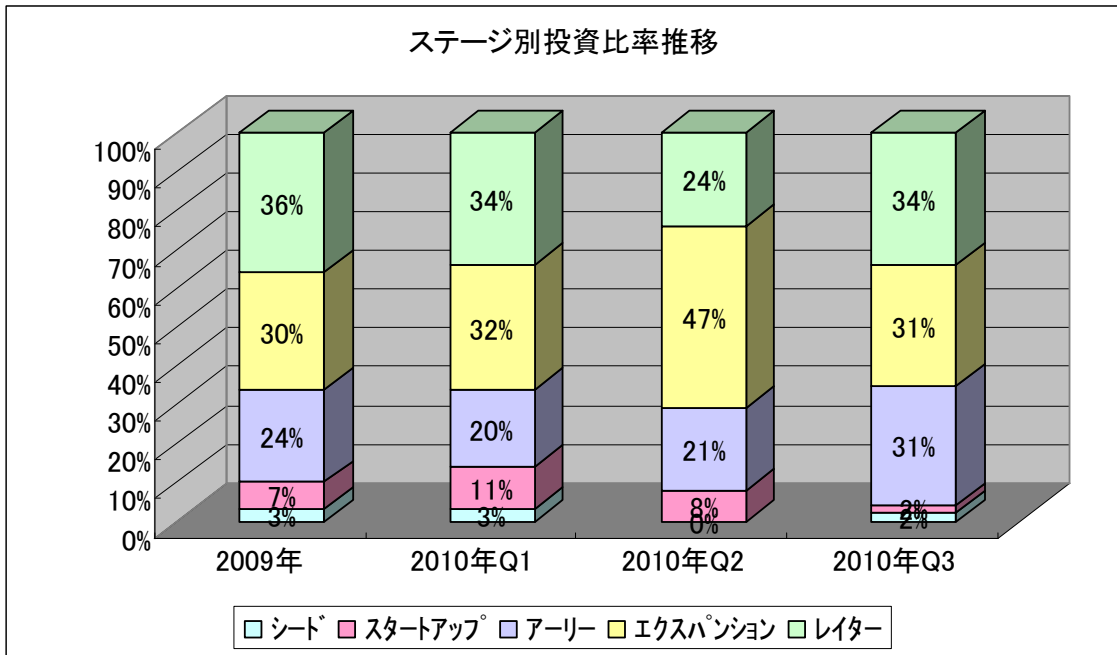
(3) 業種別投資比率

2009年と比較して5%以上増えた業種はメディア・小売の6%(10% 16%)で次いで4%の工業・エネルギー(21% 25%)と医療機器・ヘルスケア(4% 8%)が続き、逆に5%以上減った業種は金融・不動産の7%(12% 5%)とコンピュータ及び関連機器の5%(11% 6%)であった。クリーンテクノロジー関連の投資は8%で2009年の比率と同様であった。



#### (4) ステージ別投資比率

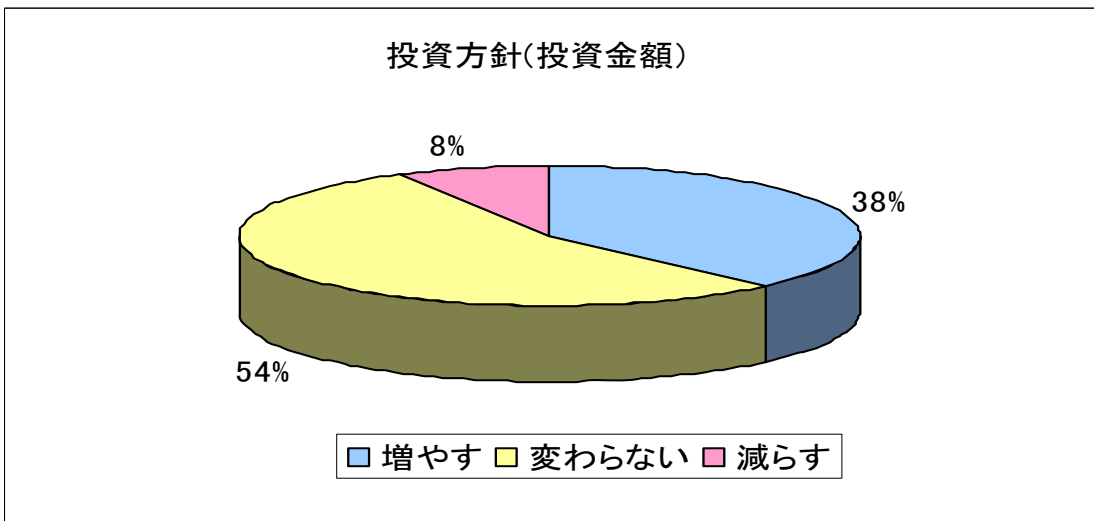
昨年から続いているエクспанション・レイターステージへの投資シフトはほぼ定着して全投資の2/3の割合を占めるに至っている。一方その中で今第3四半期は前期比アーリーステージの割合が10%ほど増加しており、早期段階の投資が徐々に増える兆しが認められる。1期だけでは早計に判断出来ないがこの要因は今年に入り新規ファンドが約350億円組成されたことに起因するものと推察する。



### 3. 今後の投資方針（アンケート回収のうち未回答を除く）

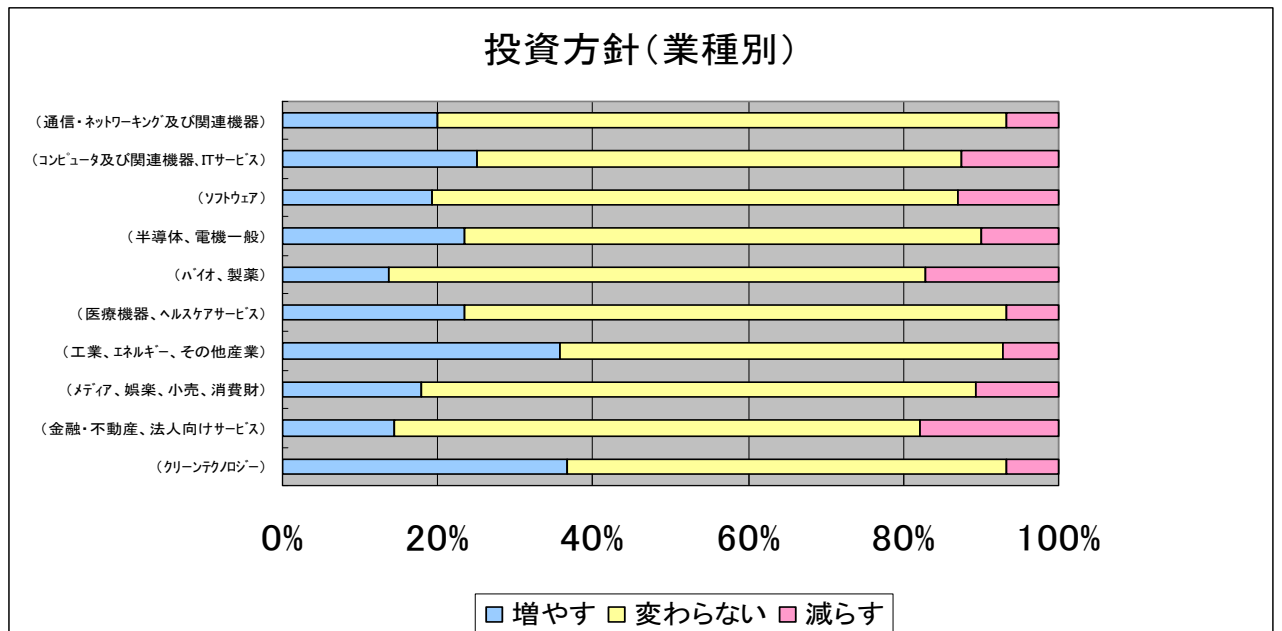
#### （1）投資金額

今後投資金額を増やすとしたVCは38%、減らすとしたVCは8%。案件次第であるが積極的な投資スタンスを取るVCが多い。



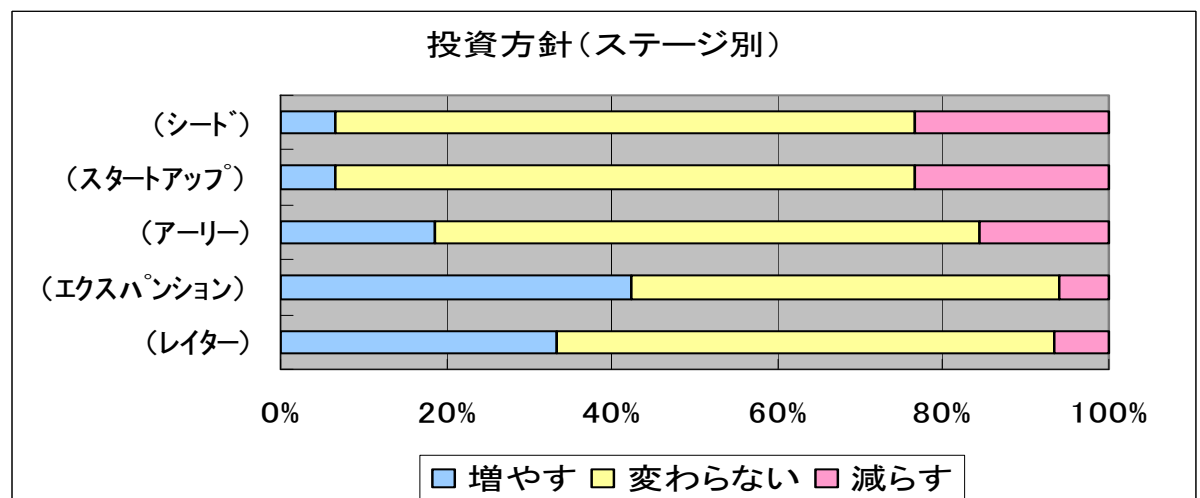
## (2) 業種別

今後投資を増やす業種として回答が多かったのが、クリーンテクノロジー関連、工業・エネルギー関連。逆に減らすとして回答が多かったのが金融・不動産関連とバイオ・製薬関連。



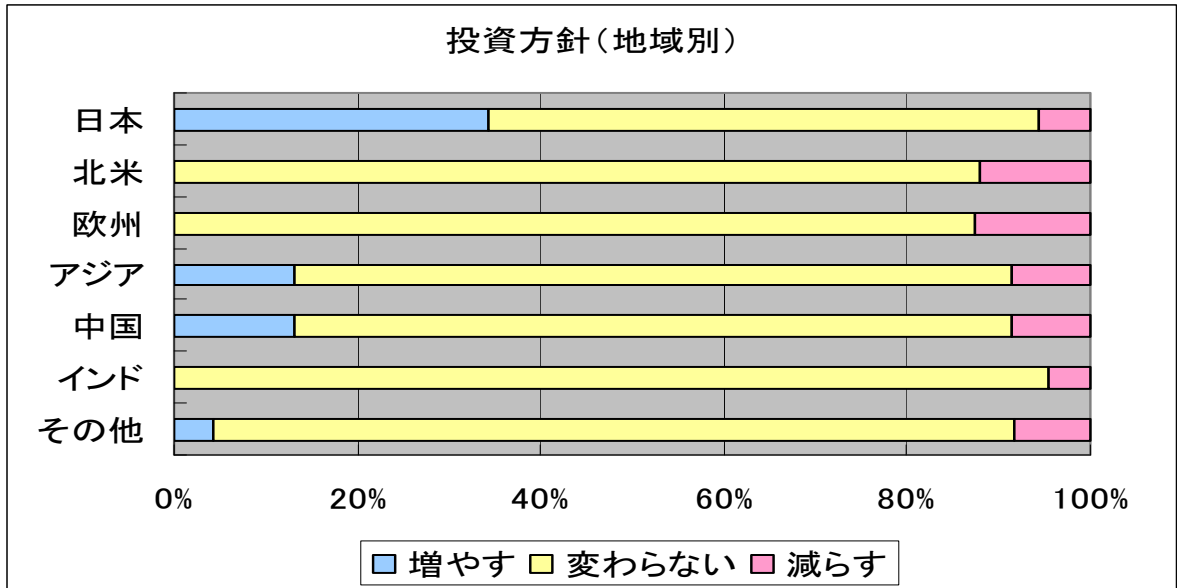
## (3) ステージ別

今後投資金額を増やすとしたステージで回答が多かったのが、エクспанション、レイターステージ。逆に減らすとして回答が多かったのがシード、スタートアップステージ。



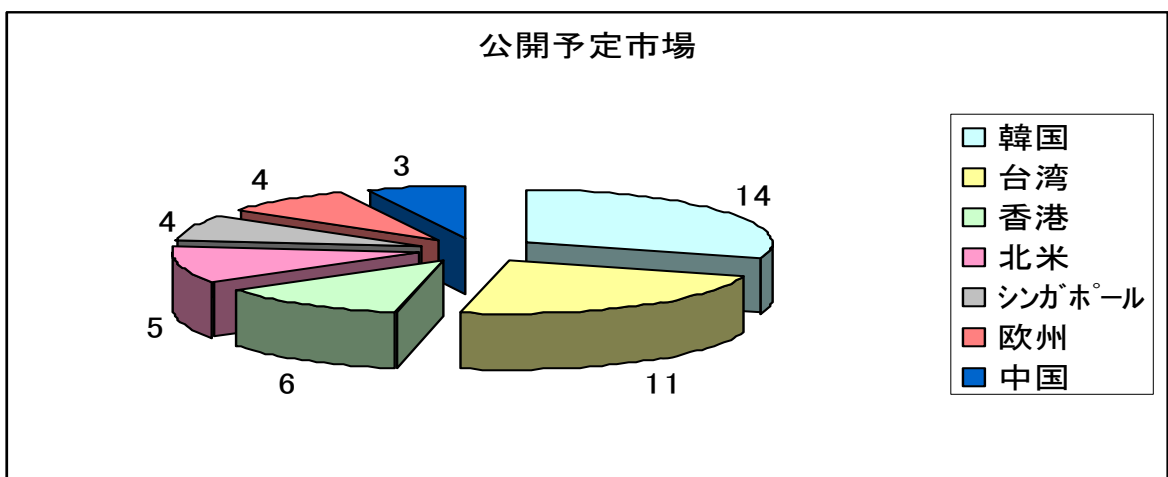
(4) 地域別

今後投資を増やす地域として回答の多かったのが、日本、アジア（中国以外の）、中国。



(5) 公開予定市場

今後の既投資先の公開予定市場を日本以外の海外市場でどこの市場を狙っているかを回答してもらった結果、多かったのが韓国 14 社、台湾 11 社、香港 6 社。



以上